

学校法人天理大学

平成27年度 事業報告書

1. 法人の概要

(1) 設置する学校・学部・学科の名称および入学定員と学生数

【天理大学】

平成27年5月1日現在

学部等	学科等	入学定員	収容定員	学生数
人間学部	宗教学科	40	190	165
	人間関係学科	80	320	348
	計	120	510	513
文学部	国文学国語学科	40	160	171
	歴史文化学科	50	200	187
	計	90	360	358
国際学部	外国語学科	180	690	617
	地域文化学科	180	720	758
	計	360	1,410	1,375
国際文化学部	アジア学科	募集停止	—	3
	ヨーロッパ・アメリカ学科	募集停止	—	1
	計	募集停止	—	4
体育学部	体育学科	200	800	875
総合計		770	3,080	3,125

【天理大学大学院】

平成27年5月1日現在

学部等	学科等	入学定員	収容定員	学生数
臨床人間学研究科		8	16	17
体育学研究科		12	12	10
総合計		20	28	27

【天理高等学校】

平成27年5月1日現在

学部等	学科等	入学定員	収容定員	学生数
全日制課程（第一部）	普通科	※ 520	1,560	1,210
定時制課程（第二部）	普通科	※ 144	576	377
総合計		664	2,136	1,587

※全日制課程の募集人員は440名、定時制課程の募集人員は108名

【天理中学校】【天理小学校】【天理幼稚園】

平成27年5月1日現在

学部等	学科等	入学定員	収容定員	学生数
天理中学校		200	600	568
天理小学校		※ 125	750	535

天理幼稚園		50	200	117
-------	--	----	-----	-----

※募集人員は約 110 名

以上、大学から幼稚園までの学生数の総計： 5, 9 5 9 名

(2) 役員・教職員の人数

平成 2 7 年 5 月 1 日現在

部 門	役 員	教 員		職 員		計
		専任	兼任	専任	兼任	
法人	16			35	21	72
天理大学		144	208	91	75	518
天理図書館				34	16	50
おやさと研究所		7		1	4	12
天理参考館				23	5	28
天理高等学校(第一部)		78	5	29	95	207
天理高等学校(第二部)		29	5	21	49	104
天理中学校		36	3	5	18	62
天理小学校		25	1	5	2	33
天理幼稚園		13		2	1	16
合 計	16	332	222	246	286	1, 102

2. 事業の概要

本法人は、「陽気ぐらし世界」の実現に寄与できる人材、すなわち「よふぼく」の育成を目指す「信条教育」を核とする学校経営に努めてまいりました。

教祖百三十年祭へ向かう三年千日の終盤にあたる本年度、全教職員を対象として毎年3回に分けて実施しております「信条教育講習会」は、西浦忠一本部員を講師に迎えて実施しました。また、前年度同様「おつとめ」についての基本的理解を深めることを目的として、小中高の教義科担当教員を中心に「おつとめ勉強会」を毎月開催しました。「おてなおし」を通して教員自身の成人につながるよう努めました。

また、1月26日の年祭当日、管内園児・児童・生徒・学生そして教職員は参拝をし、大学生・高校生の一部は特別ひのきしんを勤めました。

天理スポーツ指導者講習会は管内各学校のスポーツクラブ指導者・関係者を対象として毎年1回開催しており、飯降天理大学学長が「天理スピリットの進化」と題して講演を行い、天理スポーツのよって立つ精神を改めて確認する機会となりました。

教育現場で勤める教職員にとっては、研修が何より大切であることは申すまでもありません。各施設でも自主的な研修会を各種実施しておりますが、法人としても新任者研修会、現職研修会、公開授業研究会等を積極的に実施し、教職員の資質の向上を目指しました。

施設・設備面では主なものとして、中学校のトイレ改修、内線電話の全面改修、生徒用机椅子の更新、高等学校の別館トイレ改修、陽心寮バルコニー改修、そして大学ではCALL教室・PC教室（柚之内・田井之庄キャンパス）・情報ライブラリー等の情報機器設備更新、2号棟4階の空調設備更新、心光館高圧変電設備更新等を行い、それぞれの教育環境の改善に努めました。また、心光館エレベーター設置・前栽ふるさと寮新築工事を行い、学生の利便の向上を図りました。

学校経営をめぐる厳しい環境下にある本法人の財政基盤強化のために設立した事業会社「(株)キャンパスサポート天理」は、引き続き「施設管理業務」、「物品納入サポート」および「損害保険・生命保険代理店業務」を中心にした活動をしております。大学のイブニングカレッジの運営も順調であります。機密文書の安全な廃棄やその他の産業廃棄物の処理業務等、コスト削減のための施策にも継続して積極的に取り組みました。

以下、平成27年度の各施設の主な事業内容を報告いたします。

【天理大学】

本学は、4月23日に創立90周年を迎え、「天理大学創立90周年記念式典」を陽気ホール（南右第二棟）で行いました。式典には、中山善司天理教真柱をはじめ荒井正吾奈良県知事や海外協定校の学長等、多数来賓の出席を得て盛大に執り行いました。同日に「天理大学創設者中山正善生誕110年記念シンポジウム」を、ふるさと会と大学の共催で開催しました。また創立90周年記念行事として、4月15日から6月8日までの間、附属天理参考館、同図書館と大学との共催で「ギリシア考古学の父 シュリーマン展」を、さらに4月2日・3日に天理図書館特別展「ドイツと日本」や4月23日に新天理図書館善本叢書刊行記念「古典書籍の至宝」展を開催しました。7月8日から20日までの間、「90周年記念夏期日本語講座～古きを学び、新しきに触れる～」と銘打って、7か国9大学2機関（韓国・釜山大学、台湾・国立台湾師範大学、国立台東大学、中国文化大学、慈濟大学、台湾首府大学、タイ・マハーサラカム大学、メキシコ・プエブラ栄誉州立自治大学、ウクライナ・キエフ大学、アメリカ・ニューヨーク天理文化協会、フランス・天理日仏文化協会）から96名の受講生を受け入れて

開催しました。7月には韓国外国語大学音楽グループと本学雅楽部との記念公演「日韓音楽交流会の夕べ」も実施しました。

人間学部では、10月25日に公開シンポジウム「未来に求められる人間力」を開催しました。

文学部では、公開講座を春学期に「ことばと文学」(3回)、秋学期に「大和学への招待」(5回)とのテーマにもと実施しました。

国際学部では、5月27日に記念講演会「ドイツ統一25周年の意義とドイツの平和外交」、10月24日には外国語学科スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻主催「新専攻設置記念公開座談会」を開催しました。

国際学部・体育学部共催で、11月9日から12日までの間「ドイツ・ケルン体育大学との交流」と題してフォーラムやワークショップを開催しました。

体育学部では、4月25日に体育学部創立60周年・大学院体育学研究科設置記念行事の教育フォーラム「天理の体育教育の伝統と未来」を開催しました。

附属天理図書館・天理大学共催で、11月20日から29日までの間、記念特別展「悲劇の天才言語学者ネフスキー—自筆資料に見る軌跡—」を開催しました。

<大学改革>

創立90周年の年に新たな体制として、大学院に「体育学研究科体育学専攻」、国際学部外国語学科に「スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻」を設置し、スタートしました。

平成27年3月27日に公益財団法人大学基準協会へ報告書を提出後、9月1日に分科会報告書(案)が送付され、質問事項に対する回答を9月23日に提出しました。10月5日・6日にわたり同協会の実地調査を受けました。その後12月21日に「大学評価結果(委員会案)」が届き、意見申し立てを行った後、平成28年3月11日に大学評価結果が届き、天理大学は大学基準に適合していると認定されました。認定の期間は平成35年3月31日までの7年間です。

<教育・研究>

本年度の教員免許状更新講習は、奈良教育大学が開講申請者となり、本学は協力校として、柚之内キャンパスで8月24日に「英語の多様性と国際性：英語成立の過程と世界の英語としての音声学」、8月27日に「学校教育の諸課題とカウンセリング」と「古文を面白くさせる『読み』」、体育学部キャンパスで8月24日に「保健体育科における教科指導」の選択領域4講座を開講しました。

本年度科学研究費助成事業の採択件数は継続分を含めて、研究代表者分が22件(転出者を除く)、研究分担者分が22件でした。

<学生支援>

6月15日に「薬物乱用防止および交通マナー講習会」を実施しました。薬物乱用防止のDVD上映のほか、交通マナーについて天理警察署交通課の指導員による講習等を、各クラブの役員が受講しました。

また、7月2日・3日の2回に分けて「事故防止講習会」を開催しました。看護師による熱中症予防対策について説明の後、ミニアンキッドを用いての心肺蘇生法実技やAED(自動体外式除細動器)使用についての講習を行い、各クラブ役員等多数の学生が受講しました。

大学祭期間中の11月6日に日本年金機構(桜井年金事務所)がブースを設け、年金の説明や猶予の事務手続き、また質問に対する回答等を受けました。

<課外活動>

合気道部は、第46回全日本学生合気道競技大会団体戦で優勝。同大会個人戦で上田奈央（人間4年）が優勝しました。

弓道部は、第64回住吉大社全国弓道大会団体戦で優勝。第66回三十三間堂大の全国大会で中岡稜（国際2年）が優勝しました。

剣道部は、第10回全日本学生剣道オープン大会で勝見将伍（体育3年）が優勝しました。

柔道部は、アジアジュニア柔道体重別選手権大会（81kg）で正木聖悟（体育1年）が、全日本ジュニア柔道体重別選手権大会（73kg）で山本悠司（体育2年）が、スイスオープン（66kg）で木戸清孝（体育2年）が、同大会（100kg）で山戸貴史（体育4年）が、それぞれ優勝しました。

ホッケー部男子は、第34回全日本大学ホッケー王座決定戦で3年ぶり23度目、第89回全日本男子ホッケー選手権大会で8年ぶり21度目の優勝をしました。

<災害復興支援>

東日本大震災復興支援プロジェクトチームとして、宮城県七ヶ浜町での耕作放棄地を再生する農作業と松ヶ浜地区避難所での除草作業を行いました。また、石巻市では語り部の方からの説明を受けながら視察し、名取市閑上日和山では持参した千羽鶴を捧げ、全員で犠牲者へ祈りを捧げました。8月1日から4日までの間、本学学生28名と教職員6名、および海外からニューヨーク分校関係者等8名の総勢42名が参加しました。

その後9月24日に高橋伸実（ボランティア団体 ひのきしん代表）氏の講演会を開催し、併せて参加者の活動報告会を実施しました。会場では参加学生が現地で撮影した「一枚の写真」の展示も行いました。

<エコキャンパス関係>

例年同様冷暖房の設定温度（夏は28℃、冬は19℃）の周知を図るとともに、6月1日から9月30日をクールビズ期間として周知しました。期間中の6月30日には、大阪大学特任准教授の上須道徳氏の講演会を開催し、今後のエコキャンパス活動への示唆を得ました。

また、キャンパスサポート天理の協力を得て、機密性の高い書類を中心とした使用済み紙の溶解処理を行うための回収を、5月28日と11月25日の2回行いました。

前年度に引き続き大和農園（株）の指導を受け、緑陰効果を目的としたゴーヤおよび朝顔によるグリーンカーテンを柚之内キャンパス、体育学部キャンパスで実施しました。

<国際交流>

5月21日にスイスのフリブール大学と協定を締結し、これにより海外交流協定校は22か国（地域）43大学となりました。

学生交流では、協定校から63名の短期（交換）留学生を受け入れ、本学からは交換留学生として50名、認定留学生として34名の計84名の学生を派遣しました。また、海外インターンシップ制度によりアメリカへ8名（ニューヨーク3名、サンフランシスコ3名、ロサンゼルス2名）、ブラジル・サンパウロへ1名、フランス・パリへ2名、ドイツ・ケルンへ1名、ウクライナ・キエフへ1名、タイへ2名（バンコク1名、チョンブリ1名）、インドネシア・ジャカルタへ1名、短期スポーツ型インターンシップとしてスイス・フリブールへ5名、計21名の学生を派遣しました。

<入試>

平成28年度入学者選抜は、これまでの選抜に加えて、前年度は春期のみであった大学院体育学研究科において秋期の選抜を実施しました。

入試広報活動では、各地区の入試相談会や高校内ガイダンスのほか、7月、8月、9月の3回のオープンキャンパス、大学祭期間中の入試相談会、3月には2回目となる春のオープンキャンパスを開催しました。

また、天理教教会本部月次祭が執り行われる毎月26日に、天理本通りの「てんだりー colors」において入試相談会を開催しました。12月26日にオープンした「Caramel Market」にも、入試関係資料を設置し、入試相談会開催日以外における入試広報活動の拠点として位置づけました。

<広報>

パブリシティについては、創立90周年記念式典や、90周年に関連する各行事の案内等を中心に行いました。5月には、宇宙飛行士の若田光一氏が前年に宇宙で演奏した際に使用された笙の帰還セレモニーのプレスリリースを行い、多くの報道陣が取材に訪れました。

大学広報誌「はばたき」は第31号から第34号を発行し、創立90周年記念行事の情報、記念式典の模様、各学部の記念行事等を主に特集しました。

広報紙「TSUNAGARU」の創刊号、第2号を発行し、「はばたき」で掲載しきれないスポーツ関連記事や、学科・専攻の紹介等を掲載して、在学生や保証人へ配付したほか、入試広報にも活用しました。

大学要覧関係では「2016大学案内」を部分改訂しました。また、「天理大学日本語専攻案内2016」の改訂を行いました。

Webサイト関連については、編集ツール「WebRelease2マニュアル」を作成し、サイボウズのファイル管理に掲載しました。また、かねて要望のあった大学公式Facebookを立ち上げ、11月から開始しました。日々、様々な情報を発信し、アクセス数も着実に増えています。

広告の主なものとしては、毎日新聞で創立90周年記念シュリーマン展を、朝日新聞「大学力2015」では、学長のインタビューを中心に大学の教育研究を紹介しました。デジタル版での学生のインタビュー掲載は新たな試みでした。

大学史資料調査プロジェクト関連については、資料の整理・保存を進めるほか、学外からの資料請求や見学要請に対応しました。

<就職支援>

平成25年度に文部科学省から採択された「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」<テーマB>の最終年度にあたり、滋京奈地域の11大学およびインターンシップ等を推進する組織・団体等と連携し、マッチングや専門人材の養成を目指して、「社風発見インターンシップ制度」の取り組みを進めました。

就職活動時期の変更に伴い、学生の出遅れがないように、3月の就職活動のスタートにあわせて、マイナビが主催する大規模な合同企業説明会にバスを仕立て、学生の参加を促しました。

また、3月7日・8日・16日の3日間、企業の人事・採用担当者を大学に招き、学内企業説

明会（官公庁を含む）を開催しました。参加企業は156社、約600名の学生が参加しました。

<施設・設備関係>

前栽ふるさと寮(体育系女子学生寮)を増築しました。増築した新寮は64名が収容できる冷暖房完備の個室型で、快適な寮が完成しました。

心光館に障害者の移動が可能ないようにエレベーターを設置、また北側階段と踊り場を整備、さらに1階食堂横テラスのテントを張り換え食堂全体が明るくなるようにしました。

2号棟4階のボイラーによる冷暖房設備を電気空調設備に切り替えました。また、8号棟情報ライブラリーの出入り口のスロープを車椅子での入退館が容易になるように改修しました。学修環境改善の上から、3号棟では2階教室の学生用机・椅子の入れ替えを、2号棟2、3階の学生用椅子の入れ替えおよび研究棟3階演習室の学生用机・椅子の入れ替えをしました。

体育学部キャンパスの6号棟1、2階廊下および階段と踊り場を改修し、トイレ等にエアータオルを設置しました。

情報システム関係については、パソコンやAV機器の経年劣化とデジタル化のために、22教室の設備を入れ替えました。また、情報ネットワーク設備のセンターおよび主要な周辺スイッチングハブを入れ替え、インターネットアクセスの安全を保つファイアウォールシステムやスパムメールおよびウイルス対策システムを経年劣化と性能向上のため入れ替えるとともに、近年需要の増大により逼迫したインターネット回線を増速しました。さらに授業への対応として、講師用Wi-Fi アクセスポイントを体育学部も含めて3エリア増設しました。キャリア支援関係では資格試験用パソコンを入れ替えました。

学務システムのキャリアポートフォリオを更新し、これに合わせて学内ポータル画面をリニューアルしました。また教員向けには最新版 Windows 10 への対応として、関係する業務ソフトウェアやセキュリティシステムの点検と改善を実施し、次年度からWindows 10が利用できる環境整備を行いました。

<地域貢献>

天理市総合政策課との連携推進会議の中で生まれた「行政施策貢献制度」がスタートしました。天理市役所での認定式において、7月29日に2名、1月15日に21名の学生に、天理市長から認定書が交付されました。認定を受けた学生は、「高原地区街づくり協議会」への委員参加、丹波市小学校でのスポーツテスト補助、「てんりミュージックストリート」、「てくてくてんり『秋』のウォーキングフェスタ2015」での活動を行いました。

前年度に設立された「天理市環境連絡協議会」に、環境教育部会団体会員として参画し、11月22日に杣之内キャンパスにおいて、親子で参加するイチョウ等の観察および落ち葉・木の実の採集とそれを題材にした絵手紙教室の開催に尽力しました。

相互連携を結んでいる明日香村とは、明日香小学校の「子どもわくわく教室」に学生2名が参加しました。他にも留学生がモニターツアーで協力する等、交流を深めました。

天理市教育委員会、奈良新聞社、奈良県教育委員会等との共催・後援で6シリーズ計25回の公開講座を開催し、延べ893名(広報課扱い数)の受講がありました。

また、近畿圏内の高校への出張講義や模擬授業等、計31件を実施しました。

<その他>

天理大学ふるさと会（本学同窓会）との連携により、「第6回天理大学ホームカミングデー」を大学祭期間中の11月7日に開催し、約300名の卒業生、教職員が集い、盛会裏に終え

ることができました。

人権教育関係については、ヒューマンライツ助成制度による各学部・学科、各部局、学生の自発的な人権啓発活動を継続して行いました。

【天理図書館】

貴重資料・学術資料の収集・整理・保存に努め、善用を心掛けました。

整理については、インターネット上での本館所蔵資料の検索が可能となるように新収資料を随時公開しています。また、本年度は、昭和5年に開館して以来、同57年までに整理・収蔵された一般図書のカード目録遡及に本格的に取り組んだ4年目となりました。和漢古書10,370冊（2,878点）を含む76,701冊の入力が完了し、これまでのところ和漢古書約37,500冊（13,000点）を含む425,700冊の入力が完了して利用者サービスの向上に繋げました。特に和漢古書の遡及は、古典籍資料を多く所蔵する本館の使命とも言え、学界各方面の利用に供しています。

閲覧については、開架書架の図書を絶えず新整理図書と入れ替える等、見直し作業を行っています。貴重書(近世文書を含む)は、1,955冊（231名）の閲覧がありました。

見学については、天理教教会本部、天理大学、天理教道友社等からの来客が、273名（23件）あり、閲覧室、一般書庫、常設展示を案内しました。

掲載については、273件の申請があり、教科書、学習参考書から学術書、大学紀要類、テレビ放送に至るまで本館所蔵資料を利用させていただきました。

資料保存については、国宝『類聚名義抄』をはじめ、貴重資料を修復し、閲覧・複製等の利用が可能になりました。

本館所蔵資料を広く一般に公開する上から、展覧会や講演会を開催しています。館内展としてマールブルク市長天理大学創立90周年表敬訪問記念天理図書館特別展「ドイツと日本」を4月2日・3日に開催し、183名の入室者がありました。4月23日の一日に限り、新天理図書館善本叢書の刊行を記念した「古典籍の至宝」展を開催し、630名の入室者がありました。当日は、記念講演として本館岡篤偉久子による「新善本叢書について—収録書目の概要等—」を行い、63名の来場者がありました。開館85周年記念展では、「蕪村—生誕三百年を記念して—」を10月19日から11月8日まで開催し、1,744名の入室者がありました。会期中の10月31日には、藤田真一氏（関西大学教授）による記念講演「蕪村句稿の世界—夜半亭の楽屋—」を開催し、145名の来場者がありました。天理大学創立90周年記念特別展「悲劇の天才言語学者ネフスキー—自筆資料にみる軌跡—」を11月20日から同29日まで開催し、352名の入室者がありました。11月27日には、『完本天の蛇』の著者で国立民族学博物館名誉教授の加藤九祚氏をお招きし、エフゲーニー・バクシェエフ氏（ロシア文化省文化遺産研究所主任研究員）「ロシアにおけるネフスキー評価の変遷」、生田美智子氏(大阪大学名誉教授)「自筆資料から見るネフスキーの人的ネットワーク」、本館から三濱靖和による「天理図書館とネフスキー」と題する記念講演をふるさと会館において開催し、134名の来場者がありました。

館外展として、天理参考館において天理大学創立90周年記念特別展「ギリシア考古学の父シュリーマン—初公開！ティリンス遺跡原画の全貌—」を4月15日から6月8日まで開催しました。天理ギャラリー第155回展では、「手紙—筆先にこめた想い—」を5月17日から6月14日まで開催し、855名の来場者がありました。会期中の5月30日には、千葉俊二氏（早稲田大学教授）による記念講演「谷崎潤一郎の松子宛書簡について」を開催し、109名の来場者がありました。

出版活動については、天理図書館報『ビブリア』第143号(5月刊)、同第144号(10月刊)のほか、開館85周年記念展、天理ギャラリー第155回展それぞれの展覧会図録を出版しました。特に、本年度は、『新天理図書館善本叢書』(全5期36巻)の刊行を開始し、第1回配本 国宝『日本書紀 乾元本』(一 神代上) から第6回までを配本しました。

対外的な活動については、奈良県図書館協会大学・専門図書館部会の加盟館として県内の大学・専門図書館と連携、協力を図っています。また、同協会地域資料研究会から委員委嘱を受け、地域資料について調査・研究、情報の共有化を図っています。

施設・設備面については、西館書庫4階の漏水補修工事を行いました。利用者用女子トイレの電気改修工事や男子トイレのウォッシュレット(温水洗浄便座)工事等を行い、利用者環境の改善を図りました。曝書期間を利用して、正面ホール、廊下、休憩室等の清掃・ワックスがけを行い、環境美化に取り組みました。

【おやさと研究所】

創立50周年の記念として始めた公開教学講座は、開講21年を迎えるにあたり、現代に貢献できる教学研究を、人の一生に注目して考察することにした。「現代社会と天理教の死生観」を統一テーマとし、担当者がそれぞれ「誕生・子供・成人・病い・老い・死」について講演、道友社ホールにて、9月25日を第1回として平成28年1月を除いた3月まで、毎月25日に開催しました。その要旨は、「グローバル天理」、「天理時報」、「みちのとも」に掲載しました。また、公開教学講座開催に先立ち、それぞれのテーマについての勉強会を行いました。「出前教学講座」は前年度に引き続き沖縄教区で開催しました。次に、現代社会の問題に対応できる人材養成を目的とした「教学と現代」は、年祭後の活動を意識し、本年度より「これからの社会と天理教」として3年間にわたり公開で開講します。第1回の本年度は、「『家族問題』-たすけ合いの社会を目指して」をテーマとして、無縁社会などの観点から社会構造の問題として家族をめぐる問題を取り上げ、生物学、社会福祉から洞察や分析を行い、また天理教からどのような対応が可能なのかを問いました。第2回(次年度)以降も、社会福祉的な専門性や実践から天理教的家族観の近未来や生命倫理の見地から家族の生老病死をめぐる諸問題と、天理教からの応答等について順次議論を深めていく予定です。

定例の研究報告会は、毎月1回開催(281回~290回)し、研究所の研究員だけでなく、学内研究者の研究、および調査の報告を行いました。また、伝道研究会(第62回)では、コロンビアにおける文化活動と伝道のかかわりについて、拠点長よりお話を伺いました。宗教研究会は、名古屋大学出版会から出版された『宗教の総力戦』についての書評会を著者および学内外の研究者の協力を得て開催しました。月刊誌「グローバル天理」、年刊の「Tenri Journal of Religion」44、「おやさと研究所年報」22、「伝道参考シリーズ」29、および「グローバル新書」15を発刊しました。

かねて鋭意取り組んできた『改訂 天理教事典』の再改訂は10月にすべての原稿を入稿する予定でしたが、改訂・校正・確認作業に予定以上の時間がかかり、引き続き作業を行っています。また、新たに天理教について一般の方に読んで貰えるような体系的書籍である『よむ・みる 天理教』の編集は、編集方針に基づいて内容・体裁・文体の検討を加え、作業を進めていましたが、同様の趣旨の出版物が相次いで道友社より出版されたため、当初の形態(事典のような大型本)とは異なるかたちで、一部原稿を用い次年度に出版する予定となりました。教学に資するためにも、残りの原稿での出版物も検討しています。

【天理参考館】

博学連携の充実を図るため、管内各学校や天理市内の小・中学校への当施設利用促進の働きかけを行い、市内小学校教員を対象とした体験講座を開催しました。また、単に展示資料の見学案内だけでなく、事前に各学校の先生と相談を重ねて収蔵資料の中に授業で活用できるものがあれば貸出しを行う等、学校教育充実の一助となるような取り組みも行いました。

天理大学創立90周年記念特別展「ギリシア考古学の父シュリーマン—初公開！ティリンス遺跡原画の全貌—」（4月～6月）、企画展「いのりのかたち—キリスト教と民間信仰—」（7月～8月）、「中国の靈獣百態」（10月～11月）、教祖百三十年祭特別展「天理参考館の珠玉」（1月～3月）、および「みちのくの郷土玩具と出土品—東日本大震災復興支援展示—」（平成23年7月～）、スポット展「五月人形」（4月～5月）、「イスラエルのテル・ゼロール遺跡」（7月～）等を開催しました。天理ギャラリー第156回展「青銅のまつり—光と音の幻想—」（10月～11月）、第157回展「鉄道絵葉書の世界」（2月～3月）を開催しました。

特別展・企画展関連イベントとして開催した記念講演会（4回）、関連講演会（1回）、参考館フォーラム（1回）、プレミアムトークショー（1回）、ギャラリートーク（展示解説／14回）、スポット展講演会（1回）は好評でした。

このほかトーク・サンコーカン（公開講演会／9回）、長月講座「日本古代の鏡—三角縁神獣鏡に詳しくなしましょう—」（全3回）、ワークショップ「バリガムラン体験講座」、「クラシックギター講座」、「折紙を楽しもう」、「こどもおちばがえりイベント」、紙芝居「僕はシュリーマン」引き続きの「天理参考館謎解き脱出ゲーム」、「スギで龍を作ろう」、お役立ち夏休み自由工作2「玉手箱を作ろう！」、「古代豪族・物部氏の奥津城を訪ねて—杣之内古墳群と石上神宮—」を開催しました。また、ミュージアムコンサート「参考館メロディユー」（天理教音楽研究会共催／12回）を継続して開催しました。

平成21年度に始めた寄贈資料の整理、登録業務を進めました。通常業務としては生活文化・考古美術資料の収蔵品および研究用図書の実を回り、資料の調査研究、整理、修復・保存処理を行いました。

出版物については、『天理参考館報』、『特別展図録』、『企画展図録』、『天理参考館ニューズレター』を刊行しました。また、特別展関連グッズとしてクリアファイルや絵葉書を製作しました。

広報については、4月にWebサイトのリニューアルを行い情報発信のさらなる内容充実に努め、情報誌、マスコミへの情報提供、各種ポスター、ちらし等を発行するほか、3月に開設された天理市産業振興館への情報提供等、館活動の情報発信を継続するほか、広報活動の充実を図りました。

そのほか資料熟覧、資料写真掲載・映像取材等の協力を行い、また、来館者に喜んでいただけるような親切な接客、博物館情報の提供、館内の美化等に取り組みました。

【天理高等学校第一部（全日制）】

本年度の「こどもおちばがえり」ひのきしんには、7月14日から24日までの準備期間に207名の生徒が、7月25日から8月5日までの本期間に719名の生徒が参加しました。また、夏の「学生生徒修養会高校の部」には自宅生28名が参加しました。「天理教少年会育成講習会・天理高校生の部」には、78名の生徒が参加し、子どもたちと接することの喜び、縦の伝道の大切さを学びました。そして、3年生407名全員が1月に「おさづけの理」を拝戴しました。

教祖百三十年祭に際しては、1月25日・26日の2日間、主として1・2年生の生徒と教職員

合わせて1,067名がひのきしんにあたりました。25日には、2類の1年生が境内履物係として12か所に分かれ、午前9時から午後4時までひのきしんを行いました。26日には、休憩所係と境内履物係として、配属された場所で、早朝4時から午後4時半までの時間を分担してひのきしんにあたりました。

また、用木コースでは前年度から始めた“体験天理大学”と銘打った活動を今年も継続実施しました。実際に大学へ足を運び、各学年で異なるテーマのもと、大学の先生から天理大学創設の思いや天理教原典、現代宗教等について説明・講義をいただき、有意義な時間を持つことができました。

教職員研修については、7月1日に鳴り物練習、11月4日には山本道朗天理教校本科実践課程主任から「年祭ごとの天理教教史」と題する講話をいただくと同時にビデオ『道の歩み』を視聴し、教祖百三十年祭へ向け、つとめの実践の大切さ、年祭の意義について再確認しました。

教員個々が共通の認識を持って、生徒指導や進路指導に取り組めるよう、また、いじめの予防と対策、社会的規範意識の向上に向けての研修を、生徒指導部・信条教育部・人権教育部・学芸体育部等が企画し8回にわたって行いました。また、教科指導の充実を図るため、6月と11月に授業研究会を実施し、15人の教員が研究授業を行いました。また、奈良県立教育研究所の「研修講座」へ参加する等、管外の研修へも多くの教職員が参加しました。

進学・学習指導については、特に1類1、2年生で基礎講習の充実を図り、学力の底上げに取り組みました。また国公立大学を目指す生徒のために平成25年度より始めた進学講習にも力を入れました。この講習により国公立大学進学者も増え、全国模試における偏差値50を超える生徒の数が以前より増加しています。進学への意識を持たせることにより、2年次から3年次にかけての学力を以前よりも伸ばすことができているように思われます。センター試験には全類合わせて83名が出願しました。

本年度も通常の課外講習に加え、夏季・冬季講習、合宿勉強会、特設課外講習、土日を利用しての補習やセンター試験対策を行いました。また、2類の生徒が中心ではありますが、合宿勉強会を兵庫県篠山市にて行いました。総勢130名（前年度90名）が参加し、1日10時間以上の学習に取り組みました。

進学実績については、2類からは大阪大学をはじめ、九州大学、信州大学、広島大学、名古屋工業大学、横浜市立大学、奈良県立医大、奈良女子大学、奈良教育大学等の18校の国公立大学に進学しました。2類現役生75名のほぼ4人に1人が国公立大へ進学しました。また、文部科学省管轄外の防衛大学校に8名、海上保安学校に1名が合格しました。さらに、立命館大学4名をはじめ、京都産業大学6名等、多くの私立大学に延べ96名が合格しました。1類からは筑波大学、大阪教育大学、広島大学、奈良教育大学、埼玉県立大の国公立大学に7名が合格、進学しました。3類からは、法政大学、専修大学、明治大学、関西大学等、私立大学を中心に進学しました。国公立大学をはじめ、天理大学（134名）、天理医療大学（25名）、天理教校専修科（7名）やその他の私立大学（169名）、短期大学、専門学校等に、延べ453名が合格しました。

クラブ活動については、近畿地方で行われた全国高等学校総合体育大会において、64年連続出場の柔道部男子は、団体戦と個人戦7階級に出場しました。団体戦は3回戦で惜敗しベスト16に終わりましたが、個人戦では81kg級の笠原大雅（2年）と100kg級の矢野真我（2年）が第5位、100超kg級の並里樹（3年）が第3位に入賞しました。柔道部女子も団体戦と個人戦4階級に出場しましたが、入賞にはいたりませんでした。女子バレーボール部が初出場をしましたが、予選グループで敗れました。ホッケー部男子が44年連続44回目、同女子

が5年連続25回目の出場し、それぞれベスト16、ベスト8という結果を残しました。水泳部は競泳の部に男子9名が、飛び込みの部に女子4名が出場し、種村颯太（1年）が1500m自由形で第3位に入賞しました。

硬式野球部は、全国高等学校野球選手権大会に3年ぶりに出場しましたが、創成館高校（長崎県）に2対3で惜敗しました。この出場で、野球部は春夏合わせて50回目の甲子園大会出場となりました。なお、この大会後、船曳海（3年）が高校日本代表に選出され、第27回U18野球ワールドカップに出場しました。

ラグビー部は、全国高等学校ラグビーフットボール大会に2年ぶりに出場し、ノーシードから勝ち上がってシード校の常翔学園高校（大阪府）を破る等ベスト8まで進出しましたが、準々決勝で桐蔭学園高校（神奈川県）に12対31で敗れました。なお、林田拓朗（3年）が高校日本代表に選ばれ、スコットランド遠征に参加しました。

春の選抜大会では、柔道部男子が、近畿大会で団体戦3連覇を果たし、全国高等学校柔道選手権大会に出場しましたが、団体戦は準々決勝で敗れベスト8に終わりました。個人戦では笠原大雅（2年）が81kg級で準優勝しました。ホッケー部は、全国高等学校選抜ホッケー大会に男女ともに出場し、女子は優勝した石動高校（富山県）に敗れましたが、男子が決勝で今市高校（栃木県）に3対0で勝利し、3年ぶり9回目の優勝を成し遂げました。

水泳部は、3月の第38回全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会15～16歳の部200m背泳ぎで、安井健斗（1年）が優勝しました。

文化系クラブでは、吹奏楽部が11月の全日本高等学校吹奏楽大会in横浜に15年連続出場し、連盟理事長賞を受賞しました。また、3月の全日本高等学校選抜吹奏楽大会では優秀賞に輝きました。美術部は8月の第65回学展において、岡田まい（3年）が最終選考の23名に入り「入賞」を受賞しました。また、佐野葵（3年）が3次選考まで残り「賞候補入選」となりました。弦楽部は10月の第4回日本学校合奏コンクール2015全国大会ソロ&アンサンブルコンテスト（高校生アンサンブルの部）において、文部科学大臣賞（第1位グランプリ）を受賞しました。また、バトン部は12月のバトントワーリング全国大会に2年連続12回目の出場をし、金賞を初めて受賞しました。ダンス部は4月の高校ストリートダンス選手権2015で第2位に入り、6月の日本ダンス大会高校部活ダンスコンテストにおいて審査員長賞を受賞しました。

学校評価については、全教職員に対して記名式の評価（自己評価）を実施しました。これに生徒による評価を加え、学校としての在り方や生徒の実態を分析するとともに、学校評価の目的に相応しい取り組みができるよう、各分掌で成果と課題を整理し、次年度に向けた方策を示しました。

施設面については、別館トイレの改修を行い、また、平成28年度完成を目指し南グラウンドの人工芝敷設工事に着手しました。

【天理高等学校第二部（定時制）】

教祖百三十年祭仕上げの年、日々の「諭達第三号」の拝読とともに、「十全の守護」、「八つのほこり」の拝読、おつとめ、職員月次祭まなびの充実に向けて取り組みました。また、夏の「こどもおぢばがえり」、正月の「お節会」に例年同様に多く生徒・教職員がひのきしんをさせていただきました。さらに教祖百三十年祭特別ひのきしんとして、1月24日から27日までの毎日、神殿内手洗い係として教職員と男子生徒30名・女子生徒30名、お茶所接待係として教職員と女子生徒30名が参加させていただきました。

3月6日には3年生92名が「おさづけの理」を拝戴し「よふぼく」となりました。

教育課程については、現行教育課程への対応として、県の教育課程研究集会や教科ごとの学習指導研究会等に多くの教員が参加し研修を行いました。また、校内では教科内研修や公開授業等を実施し、教材研究とわかりやすい授業の工夫に努めました。

生徒理解の上から、年度初めの約1ヶ月間、放課後を利用して、クラス担任による個人面談を実施し、個々の生徒の理解に努めました。「いじめアンケート」も年2回実施し、5月の学校・学寮懇談会や6月からの「つとめ先訪問」等といった関係各所との情報交換を実施することで、いじめの未然防止、早期発見に努めました。

また、天理警察署の担当課長から、防犯教育・交通安全教育についてお話しいただき、事件・事故の未然防止を図りました。つとめ先での自転車事故に備えて、個々のつとめ先において損害賠償保険に加入していただきました。

年2回実施している保護者懇談会にも多くの保護者に来校いただきました（出席率5月84.1%、10月89%）。オープンスクールは、前年度から6月と11月の年2回実施し、本校受験希望者への情報提供の場を広げました。本年度は6月に200名、11月には200名を超える方が来校され、授業や部活動の見学、学校説明会・個別相談会に参加くださいました。

部活動については、全国定時制通信制体育大会に8競技120名の選手が出場しました。団体に軟式野球部が9年連続12回目の優勝、ソフトテニス部が6年連続20回目の優勝、バスケットボール部男子が20年ぶり3回目、同女子が8年連続16回目の優勝を飾りました。他に団体準優勝であったのが、柔道部女子、卓球部女子、バレーボール部男子、同女子、バドミントン部女子でした。個人では柔道部女子の坂本笑子（4年）が軽量級で準優勝しました。また、他の多くの競技でも上位入賞を果たしました。

また、吹奏楽部が8月の奈良県吹奏楽コンクール高等学校小編成の部で3年連続金賞、関西吹奏楽コンクールでは初の金賞を受賞しました。他に県生活体験発表大会には2名が出場して最優秀と優秀賞を受賞しました。最優秀賞の後藤郁枝（4年）は11月の全国大会に県代表として出場し、厚生労働省職業能力開発局長賞を受賞しました。前年度も本校生徒が受賞した奈良県「食育作文コンテスト」高等学校の部において、田畑有梨沙（1年）が1,000名以上の応募の中から最優秀賞を受賞、テレビにも生出演し紹介されました。

寮関係については、陽心寮の東階段防火扉改修工事、浴室タイル改修工事、ベランダ改修工事等を行いました。さおとめ寮では老朽化した厨房排水口の新設工事と外壁の補修を行いました。

学校評価については、例年と大きな変化はなく、オープンスクール時の来校者アンケートの評価も概ね良好でした。しかし、まだまだ課題もあり、引き続き取り組んでいきたいと思えます。

農事部については、4月の「はえでづとめ」での参拝に始まり、真柱様のお田植え、稲刈りのお世話取りをしました。また、教会本部への御供物や、お節会の水菜、炊事本部で活用いただけるような各種野菜を季節に応じて栽培しました。営繕関係では、天理高校本校舎北側通路の改修工事、第4別館西側階段のペンキ塗り替え、南グラウンド人工芝化に伴う工事前の樹木の伐採等を行いました。

【天理中学校】

教祖百三十年祭へ仕上げの年となる本年度は、『互いにたすけあう』『人に喜んでいただく』ことをさせていただこう！と、生徒会役員が全校生徒に呼びかけ、それぞれに自分ができたと思うことを用紙に記入して生徒会特製ポストに投函しました。それを昼食時の放送「生徒会アワー」で定期的に紹介して、「たすけあい」と「人に喜んでいただく」こ

とを実践する取り組みをしました。年祭当日は、幼稚園西側のパイプ椅子に座って全校生徒で参拝させていただきました。

学校全体としては、「毎朝の学校参拝」や「ひのきしん活動」に、教職員・生徒ともに勇んで意欲的に取り組むことができました。また、「お願いづとめ」や、教職員による「おさづけの取り次ぎ」等、意識の高まりとともに積極的な実践が学校生活の多くの場面で見られました。今後も、教職員自らが「よふぼく」であるという自覚をしっかりと持ち努力を重ねたいと考えています。

授業内容の充実や教員の資質向上については、外部講師を招いて行う公開授業が4年目となり、本年度は、2学期に「社会科」が公開授業と指導・助言をいただく研修を実施しました。前年度と同様に、天理市教育委員会の指導主事や市内公立中学校の社会科の教員にも参加していただいたの研修となりました。また、県や市の「研修講座」や「授業研修」へも参加しました。

学校生活については、前年度同様に「いじめのない学校生活をめざす」ということを重点目標に掲げて取り組みました。いじめに関するアンケートを実施する中で見えてきた問題点について、各クラスや学年、生徒指導部会で細かな点まで見逃さずに対応できるよう心掛けるとともに、問題が起こった際には、学校全体が組織として動くよう心掛け取り組みました。

学習面については、生徒一人ひとりの学習への意識を高め学力を向上させていくことを目標に、基礎基本に重点をおいた指導の徹底に取り組みました。また、各学年が朝の会の時間を使って、読書や学習に取り組むことで、1時間目から真剣に落ち着いて授業に向かうよう指導しました。

高校入試については、多くの生徒が希望する進路を開拓実現するとともに、管内の高等学校との連携をさらに推し進め、個々の徳分を生かせる進路開拓ができるよう進路指導を充実させました。

不登校傾向の生徒やオアシスルームに入る生徒、また、近年増加傾向にある、心に問題を抱える生徒たちへのケアについては、教育相談委員を中心に、各担任や学年、養護教諭やカウンセラー、天理大学院生であるオアシスフレンドとの連携を密にしながら状況把握に努め、カウンセリングにつなげる等のサポートを行いました。また、担任や副担任の家庭訪問も必要に応じて繰り返し実施しました。

部活動については、ラグビー部、飛込部、柔道部、水泳部、弦楽部が全国大会への出場を果たしました。その中で、ラグビー部が9月の全国中学生ラグビーフットボール大会で2年ぶり3回目の優勝、8月の全国中学校柔道大会（90kg超級）で中野寛太（3年）が準優勝しました。

【天理小学校】

自ら信仰する姿が信条教育につながるという思いから、教職員は自教会の月次祭への参拝を心掛け、その際には他の教員が代わって授業を行い、時間割の変更に応じるといった環境を大切にしました。また、教祖百三十年祭に向けて積極的なおさづけの取り次ぎや路傍講演に出向く等「においがけ」、「おたすけ」の実践に取り組みました。児童に対しては、教義および信条の授業を通して、平日頃から教祖の教えを伝えるようにしました。

信条の授業については、本年度の中テーマ「お道の教えを通して、児童の心を育てる」に基づいて進めました。前年度発刊した『道の子撰集』を教材として扱い、授業案を作成して「研究授業」を行いました。授業公開後、できるだけ迅速に「振り返り」をし、忌憚

のない意見交換をして、授業力と指導力の向上を図りました。

本年度も教職員の「学校評価・自己点検」並びに「保護者アンケート」を実施しました。

「学校評価・自己点検」については、前年度と同様の〈重点目標〉と〈目標達成の方策〉の項目でしたが、残念ながら20項目すべてにおいて前年度の評価を下回りました。特に「きちんとした挨拶ができるよう指導する」では、猛省を促される結果となりました。教職員自らの姿勢も問われているように感じています。また、「学級経営の成果があがるように努める」については、新任をはじめとする経験の浅い教員が急増していることから、学級経営の難しさを痛感しています。急遽、加配の措置を取り乗り越えることができましたが、今後、さらなる対応が必要であると考えています。なお、児童対応の難しさの要因として、学力および生活行動面で気がかりな児童が増えつつあることが挙げられます。これまでとは異なる環境での「特別支援」が求められていると考えています。

「保護者アンケート」については、「子どもが悩みに対して相談しやすい環境」が乏しいとの指摘がありました。平素から、子どもが抱えている問題にいち早く気づくことが肝要であると考えています。

学習の基礎・基本の習得については、長年取り組んでいる「天小タイム」の活用が基盤になっています。しかしながら、新しい学習指導要領のもとで履修すべき範囲が広がり「天小タイム」の時間を半減せざるをえなくなりました。その影響と思われるのが、「学力テスト」における、評定1・2の増加です。統一した時間が設けられない現状ではありますが、別の時間帯で、基礎・基本の徹底を目指したいと考えています。

職員研修計画については、本年度も大テーマ「信条教育の実践Ⅱ」、中テーマ「お道の教えを通して、児童の心を育てる」、「児童の学力を育てる」、「児童に生きる力を身に付けさせる」とし、さらに6つの小テーマからなる「研修計画」のもと、多方面での研修を実施してきました。個々が実践した研究授業については、そのたびに反省会を開いて学びを深めました。年度末の検討会では、次年度に向けて「実りのある研修計画の立案を目指して」の意見が出されました。重点目標については、次年度は「漢字・暗唱・計算」に力点を置くことになりました。

生徒指導については、これまでと同様に月一度のペースで「教育相談・いじめ・不登校対策委員会」を開きました。学級担任から出された児童の情報を共有し、学校全体が関心を寄せることで、問題事象の早期発見と解決につなげています。ケースによっては、かなりの時間を費やして検討しました。個人情報という制約はありますが、場合によっては保護者の協力を得ながら解決策を検討していく必要があると考えています。

施設面については、体育館やプールをはじめ、諸設備の老朽化も目立ってきております。想定外にならぬよう、普段から施設の点検に努めました。

【天理幼稚園】

教祖百三十年祭年祭活動仕上げの年であり、また天理幼稚園創立90周年を迎えた意義深い旬でもありました。この節目に、日々子ども達に接する教職員が、親神様のお恵みの中で生かされていることに感謝し、子ども達にとって良き手本となるよう一手一つに勇んで務めさせていただきました。

創立90周年記念行事として、運動会と音楽会を行いました。運動会では、競技やリズムダンスに取り組む中で90周年をみんなでお祝いできるような内容を工夫しました。音楽会は初めての試みで「陽気ホール」をお借りして行いました。記念式典では、安野理事長より話を受け、教職員一同が創立の精神に立ち返りました。続いて、3歳児・4歳児・5歳児が今

まで経験し積み重ねてきたことを合奏、合唱、オペレッタにして各々に発表しました。また、創立90周年記念誌『90年のあゆみ』と、創立90周年記念の『教童話脚本集』を発刊しました。

教育内容については、朝の遊びを充実させるためには、環境構成にどのような工夫が必要なのか、援助の在り方についても検討しました。また子ども達が体育用具・遊具を使って、思う存分身体を動かし、意欲をもって遊ぶことができるように準備・計画し、遊具に表示をつける等遊びを高めていけるような配慮を心掛けました。

特別な支援を要する子どもに対しては、個別のカリキュラムを作成し、発達の様子や課題について教職員間で話し合う機会を増やし、配慮すべき点を明確にして共通理解のもと支援にあたりました。

教育研修については、文部科学省の研究課題「新たな指導計画を作成するためには、指導の過程についての反省や評価を適切に行うには、どのような工夫が必要か」に基づいて、遊びの記録作成について話し合い、次年度に活かせるよう検討を重ねました。

保護者との連携については、園内の様々な情報や活動を、プリント配布や園内におけるスナップ写真の展示、Webサイトへの掲載等にて紹介し、より理解いただけるように努めました。また、幼児それぞれについても、体調変化やその日の園での様子を詳細に電話で報告する等、家庭との連携を密にするよう心掛けました。育友会主催行事（バザー、おもちつき等）では、教職員も役割を担い、保護者との交流を深めました。

保護者アンケートを含んだ学校評価を実施しました。どちらも高評価でしたが、寄せられた意見や要望については見直しや改善に努めさせていただくことを、3月の育友会総会で報告しました。

安全対策については、教会本部保安室消防掛に講師を依頼し、全教職員が救命救急講習を受講、AED使用を含む緊急時の対応について学びました。

環境面については、専門業者による園庭の全遊具の安全点検を行いました。また、園庭の木製遊具にやすりをかけ、防腐剤を塗る等の修理や手入れを行いました。

3. 財務の概要

(1) 平成 27 年度決算の概要

平成 27 年度決算について、予算と対比してその概要を報告します。なお、学校法人会計基準の一部を改正する法令(平成 25 年 4 月 22 日 文部科学省令第 15 号)に基づき、計算書類の様式を変更しています。貸借対照表(固定資産明細表を含む。)の前年度末の金額は改正後の様式に基づき、区分及び科目を組み替えて作成しました。

○ 資金収支計算書

資金収支計算書は、当該年度における教育・研究その他の活動に対応するすべての収支内容、並びに支払資金の収支のてん末を明らかにしたものです。すべての収支内容を明らかにするとは、実際の収入・支出に限らずその会計期間に入金又は出金すべき額、すなわち未収入金や未払金も収入・支出に含め、授業料免除等のお金の動きが実際にはない活動も含めることとなります。また、支払資金のてん末とは、支払資金の前年度末残高、入金、出金及び年度末残高を明らかにすることです。従って収入には前年度繰越支払資金を含めて計算し、支出には翌年度繰越支払資金を含めて計算することになり、収入の部合計と支出の部合計は一致します。

資金収支計算書は企業会計におけるキャッシュ・フロー計算書に近いものですが、個々の収入金額、支出金額は前受金、未収入金、未払金、前払金等で処理した費用も含まれていますので、必ずしもキャッシュ・フローとはなっていません。しかし、それら前受金等を調整する「調整勘定」を設けることにより、総額としてはキャッシュ・フローを示しています。

(単位：千円)

●収入の部			
科 目	予 算 額	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,664,120	3,673,659	△ 9,539
手数料収入	65,190	70,616	△ 5,426
寄付金収入	2,642,000	2,644,668	△ 2,668
補助金収入	1,100,985	1,145,208	△ 44,223
資産売却収入	100,000	100,077	△ 77
付随事業・収益事業収入	12,189	14,613	△ 2,424
受取利息・配当金収入	28,030	29,779	△ 1,749
雑収入	395,486	406,336	△ 10,850
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	463,530	485,180	△ 21,650
その他の収入	1,051,100	1,271,955	△ 220,855
資金収入調整勘定	△ 745,530	△ 938,514	192,984
前年度繰越支払資金	5,120,265	5,120,265	
収入の部合計	13,897,365	14,023,842	△ 126,477

●支出の部			
科 目	予 算 額	決 算	差 異
人件費支出	5,792,323	5,790,832	1,491
教育研究経費支出	1,407,122	1,302,203	104,919
管理経費支出	386,251	370,250	16,001
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	282,331	279,668	2,663
設備関係支出	185,573	207,666	△ 22,093
資産運用支出	700,210	700,488	△ 278
その他の支出	1,234,000	1,610,411	△ 376,411
資金支出調整勘定	△ 929,420	△ 971,022	41,602
翌年度繰越支払資金	4,838,975	4,733,346	105,629
支出の部合計	13,897,365	14,023,842	△ 126,477

収入の部では、学生生徒等納付金収入は約 954 万円の収入超過の 36 億 7366 万円となりました。手数料収入は予算に対して 543 万円増額となっています。寄付金収入は宗教法人天理教より 26 億円、その他の寄付金は 100%出資の事業会社「キャンパスサポート天理」の受配者指定寄付金、使途指定寄付金及び一般寄付金を合わせて 4467 万円ありました。補助金収入は国庫補助金収入が私立大学等経常費補助金の増減率の配点の変更になったことにより減額し見込みを下回り 5 億 4288 万円となりました。地方公共団体補助金収入は見込みを上回り、5474 万円予算額より増額の 6 億 233 万円となり、補助金合計は 11 億 4521 万円となりました。受取利息・配当金収入は見込みを上回り 175 万円の収入超過となっています。雑収入は、施設設備利用料収入が見込を上回り 660 万円の収入超過、私立大学退職金財団等交付金収入が予算どおり、また、その他の雑収入が 351 万円見込を上回ったことなどにより、予算に対して 1085 万円の増加となりました。前年度繰越支払資金等を加えた収入の部合計では 140 億 2384 万円となりました。

支出の部では、人件費支出は予算を 149 万円下回り 57 億 9083 万円となりました。前年度より教員人件費は 2058 万円減額し、職員人件費は 1740 万円減額しました。退職金が減額したため、人件費合計では、前年度より 2 億 6937 万円減額しています。教育研究経費支出、管理経費支出、施設関係支出、設備関係支出に計上された主な工事、備品等の整備は以下のとおりです。

施 設	内 容
大 学	◇ 2 号棟 4 階空調更新工事 ◇ 前栽ふるさと寮新築工事 ◇ 心光館高圧変電設備更新工事 ◇ 基幹ネットワーク機器リプレース ◇ 心光館エレベーター設置工事 ◇ 1 号棟一部解体工事等 ◇ マルチメディア教室情報機器設備入替 ◇ キャリアポートフォリオシステム更新 ◇ 3 号棟 2 階 6 教室机・椅子更新 ◇ 心光館食堂（テラスメント）改修工事 ◇ 公用車購入
図 書 館	◇ 西館 2 階会議室壁面改修工事 ◇ 地階男子トイレ改修工事 ◇ 特別図書「賦何牆連歌百韻」「宇治拾遺物語」「1595 年イエズス会士日本報告書簡」「いそじ」「肘下選蟻：花蟲畫譜」他購入、「源氏物語：54 帖」「万葉集」「蛮船風説」他修理 ◇ 国宝「類聚名義抄」保存修理

施設	内 容
参考館	◇空調設備更新工事 ◇温湿度制御不具合修繕工事
高等学校	◇印刷機購入 ◇別館便所改修工事 ◇吹奏楽部楽器購入 ◇南グラウンド陥没箇所復旧工事 ◇第二柔道場改修工事 ◇南グラウンド人工芝化付帯工事 ◇北寮寮長宅塗装工事 ◇北寮3階窓枠改修工事 ◇勾田寮ボイラー更新工事 ◇白球寮休憩室改修工事 ◇陽心寮バルコニー改修工事 ◇さおとめ寮排煙オペレーター改修工事
中学校	◇校内内線電話全面改修工事 ◇生徒机、椅子更新 ◇中央トイレ改修工事 ◇東来賓トイレ改修工事
小学校	◇監視カメラシステム更新

資金支出は合計で140億2384万円となり、そのうち翌年度繰越支払資金は47億3335万円となりました。

【用語（科目）の説明】

資金収入の部

- ① 学生生徒等納付金収入……授業料、入学金、実験実習料、維持費、教育設備充実費等
- ② 手数料収入……………入学検定料、試験料、証明手数料等
- ③ 寄付金収入……………宗教法人天理教よりの回付金、使途指定寄付金、一般寄付金等
- ④ 補助金収入……………私立大学等経常費補助金、奈良県私立学校経常費補助金等
- ⑤ 資産売却収入……………固定資産の売却収入、有価証券の売却収入
- ⑥ 付随事業・収益事業収入…図書館、参考館の事業収入、受託事業収入
- ⑦ 受取利息・配当金収入……預金、有価証券等の利息、配当金等
- ⑧ 雑収入……………施設設備の賃貸料収入、私立大学退職金財団等交付金収入、その他の雑収入
- ⑨ 借入金等収入……………日本私立学校共済・振興事業団、金融機関よりの借り入れ収入
- ⑩ 前受金収入……………翌年度入学の学生、生徒等に係る学生生徒等納付金収入
- ⑪ その他の収入……………引当特定資産の取崩収入、前会計年度末における未収入金の当該会計年度における収入、
預り金収支を純額で表示し、預り金支払額を超える預り金受入収入
仮払金収支を純額で表示し、仮払金の支払額を超える仮払金回収収入
- ⑫ 資金収入調整勘定……………当該会計年度期末における未収入金、前会計年度の前受金

資金支出の部

- ① 人件費支出……………教員・職員に支給する本俸、期末手当及びその他の手当並びに所定福利費
役員報酬、退職金
- ② 教育研究経費支出……………教育研究のために要する経費
- ③ 管理経費支出……………教育研究経費以外の経費
- ④ 借入金等利息支出……………借入金に係る利息支出
- ⑤ 借入金等返済支出……………借入金の返済支出
- ⑥ 施設関係支出……………土地、建物、構築物等固定資産取得のための支出（資産運用目的のための取得を除く）
- ⑦ 設備関係支出……………耐用年数が1年以上の10万円以上の備品、長期間にわたって使用保存する書籍等、
車両の取得のための支出
- ⑧ 資産運用支出……………有価証券購入のための支出、引当特定資産への繰入支出
- ⑨ その他の支出……………前会計年度末における未払金の当該会計年度における支出
預り金収支を純額で表示し、預り金受入額を超える預り金支出
仮払金収支を純額で表示し、仮払金の回収額を超える仮払金支出
- ⑩ 資金支出調整勘定……………当該会計年度期末における未払金

○ 活動区分資金収支計算書

活動区分資金収支計算書は、学校法人会計基準の改正により平成27年度より作成が義務づけられました。この計算書は、資金収支を「教育活動」「施設整備等活動」「その他の活動」に区分し、活動区分ごとの収入、支出及び収支差額を表示することで資金の流れを明らかにするものです。「教育活動による資金収支」では、学校法人の本業である教育活動によりどれだけの資金が獲得できたのかがわかります。「施設整備等活動による資金収支」では、当年度に施設関係、設備関係の取得がどのくらいあったのか、財源が何であったのかがわかります。「教育活動」と教育活動をインフラ面から支える「施設整備等活動」の資金収支差額の合計は学校法人の活動における中心的な収支内容を明らかにします。また、「その他の活動による資金収支」では、借入金の状況、資金運用の状況等、主に財務活動について把握することができます。

(単位：千円)

教育活動による資金収支			
収 入		支 出	
科 目	予 算 額	科 目	差 異
学生生徒等納付金収入	3,673,659	人件費支出	5,790,832
手数料収入	70,616	教育研究経費支出	1,302,203
特別寄付金収入	2,621,666	管理経費支出	370,250
一般寄付金収入	11,194		
経常費補助金収入	1,145,208		
付随事業収入	14,613		
雑収入	405,829		
教育活動資金収入計(A)	7,942,785	教育活動資金支出計(B)	7,463,285
		差引(A-B-C)	479,500
		調整勘定等(D)	△ 224,460
		教育活動資金収支差額(C+D=①)	255,040

施設設備等活動による資金収支			
収 入		支 出	
科 目	予 算 額	科 目	差 異
施設設備寄付金収入	11,808	施設関係支出	279,668
施設設備売却収入	77	設備関係支出	207,666
校舎等建設引当特定資産取崩収入	320,016	校舎等建設引当特定資産繰入収入	100,000
施設整備等活動資金収入計(a)	331,901	施設整備等活動資金支出計(b)	587,334
		差引(a+b=c)	△ 255,433
		調整勘定等(d)	38,365
		施設整備等活動資金収支差額 (c+d=②)	△ 217,068

小計(教育活動資金収支差額+施設設備等活動資金収支差額)(①+②=③)	37,972
-------------------------------------	--------

その他の活動による資金収支			
収 入		支 出	
科 目	予 算 額	科 目	差 異
有価証券売却収入	100,000	有価証券購入支出	400,001
退職給与引当特定資産取崩収入	200,000	第3号基本金引当特定資産繰入支出	487
修学旅行費等預り金受入収入	213,712	退職給与引当特定資産繰入支出	200,000
仮払金回収収入	7,892	預り金支払い支出	162,580
小計	521,604	修学旅行費等預り預金への繰入支出	213,712
受取利息・配当金収入	29,779	小計	976,780
過年度修正収入	506		
その他の活動資金収入計(ア)	551,889	その他の活動資金支出計(イ)	976,780
		差引(ア-イ=ウ)	△ 424,891
		調整勘定等(エ)	0
		その他の活動資金収支差額 (ウ+エ=④)	△ 424,891

支払資金の増減額（小計+その他の活動資金収支差額）(③+④)	△ 386,919
前年度繰越支払資金	5,120,265
翌年度繰越支払資金	4,733,346

平成 27 年度決算では、教育活動資金収支差額は 2 億 5504 万円の収入超過、施設設備等活動資金収支差額は 2 億 1707 万円の支出超過になり、教育活動資金収支差額と施設設備等活動資金収支差額の合計は 3797 万円になりました。また、その他の活動資金収支差額は 4 億 2489 万円の支出超過になっています。これらにより、翌年度繰越支払資金は 3 億 8692 万円減額し、47 億 3335 万円となりました。

○ 事業活動収支計算

事業活動収支計算書は、学校法人会計基準の改正により平成 27 年度より消費収支計算書に代わって作成が義務づけられました。事業活動収支計算は、当該会計年度の負債とならない収入から基本金組入額（教育・研究を継続的に維持向上させていくために必要な土地、建物、機器備品、図書等を取得した金額＝資産）を差し引いた事業活動収入と資産の消費や用役の対価である事業活動支出とで計算されます。したがって、資金収入には含まれない現物寄付を事業活動収入に加え、固定資産の利用を耐用年数期間での消費と認識した減価償却額は事業活動支出に該当します。また、教職員の将来の退職時に支給される退職金は用役の対価と認識され、退職給与引当金繰入額も事業活動支出に含まれます。さらに、事業活動収入及び事業活動支出は経常的活動と臨時的活動（特別活動）に区分し、経常的活動を教育研究に係る活動と教育活動外（財務活動・収益事業活動）に区分して、その収支状況を明らかにします。これら 3 区分の収支差額を合計し、基本金組入前の当年度収支差額を計算します。ここから基本金組入額を控除した当年度収支により事業活動収入と事業活動支出の均衡の状態が明らかにされ、学校法人の経営の状況を示すことになります。

事業活動収支は企業会計における損益計算の仕組みに類似しています。（損益計算書では計上されない資

本的支出が、事業活動収支計算書では基本金組入額として計上されている点が主な相違点です。) 学校法人は企業と異なり収益の獲得を目的とするものではありませんので、学校法人会計には損益の計算という概念はありません。教育研究内容に見合った適正な収入を得て、教育研究活動の機会と場を永続的に提供することを目的としています。事業活動収支計算の事業活動収入と事業活動支出が長期的にはつり合い、必要な資産が維持されることが健全な学校経営として望まれるところです。

(単位：千円)

教育活動収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		学生生徒等納付金	3,664,120	3,673,658	△ 9,538
		手数料	65,190	70,616	△ 5,426
		寄付金	2,642,000	2,632,860	9,140
		経常費等補助金	1,100,985	1,145,208	△ 44,223
		付随事業収入	12,189	14,613	△ 2,424
		雑収入	395,486	405,830	△ 10,344
		教育活動収入計	7,879,970	7,942,785	△ 62,815
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		人件費	5,792,923	5,779,940	12,983
		教育研究経費	2,089,666	1,981,942	107,724
		管理経費	418,595	406,520	12,075
		徴収不能額等	0	0	0
教育活動支出計		8,301,184	8,168,402	132,782	
教育活動収支差額		△ 421,214	△ 225,617	△ 195,597	
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		受取利息・配当金	28,030	29,779	△ 1,749
		その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計		28,030	29,779	△ 1,749
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計		0	0	0	
教育活動外収支差額		28,030	29,779	△ 1,749	
経 常 収 支 差 額		△ 393,184	△ 195,838	△ 197,346	
特別収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産売却差額	0	77	△ 77
		その他の特別収入	13,750	23,564	△ 9,814
	特別収入計		13,750	23,641	△ 9,891
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産処分差額	12,400	24,899	△ 12,499
		その他の特別支出	0	0	0
特別支出計		12,400	24,899	△ 12,499	
特別収支差額		1,350	△ 1,258	2,608	

基本金組入前当年度収支差額	△ 391,834	△ 197,096	△ 194,738
基本金組入額合計	△ 160,800	△ 310,202	149,402
当年度収支差額	△ 552,634	△ 507,298	△ 45,336
前年度繰越収支差額	△ 11,040,820	△ 11,040,820	0
基本金取崩額	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△ 11,593,454	△ 11,548,118	△ 45,336

(参考)

事業活動収入計	7,921,750	7,996,205	△ 74,455
事業活動支出計	8,313,584	8,193,301	120,283

【用語（科目）の説明】

教育活動収支

- ① 学生生徒等納付金……授業料、入学金、実験実習料、維持費、教育設備充実費等
- ② 手数料……入学検定料、試験料、証明手数料等
- ③ 寄付金……宗教法人天理教よりの回付金、使金指定寄付金、一般寄付金等（施設設備寄付金を除く）
- ④ 経常費等補助金……私立大学等経常費補助金、奈良県私立学校経常費補助金等（施設整備補助金を除く）
- ⑤ 付随事業収入……図書館、参考館の事業収入、受託事業収入
- ⑥ 雑収入……施設設備の賃貸料収入、私立大学退職金財団等交付金収入、その他の雑収入
- ⑦ 人件費……教員・職員に支給する本俸、期末手当及びその他の手当並びに所定福利費
役員報酬、退職給与引当金組入額
- ⑧ 教育研究経費……教育研究のために要する経費及び教育研究用減価償却資産の減価償却額
- ⑨ 管理経費……教育研究経費以外の経費及び教育研究用以外の減価償却資産の減価償却額
- ⑩ 徴収不能額等……回収不能が確定となった未収入金等の金銭債権額

教育活動外収支

- ① 受取利息・配当金……預金、有価証券等の利息、配当金等
- ② その他の教育活動外収入……受取利息・配当金以外の教育活動外収入
- ③ 借入金等利息……借入金に係る利息支出
- ④ その他の教育活動外支出……借入金等利息以外の教育活動外支出

特別収支

- ① 資産売却差額……資産売却収入がその帳簿残高を超えた場合の超過額
- ② その他の特別収入……施設設備拡充のための寄付金、施設設備の現物寄付受領額、施設設備拡充のための補助金
過年度修正による当年度収入
- ③ 資産処分差額……固定資産を廃棄した場合の除去損
- ④ その他の特別支出……過年度修正による当年度支出、災害損失

基本金組入額合計……学校法人が、その諸活動の計画に基づき必要な資産を保持するために維持すべきものとして、
当該年度に組み入れた基本金額（固定資産、奨学基金等）

教育活動収支では、教育活動収入計が予算比 0.8%増の 79 億 4279 万円（前年度 5.27%〈4415 万円〉の減）となり、教育活動支出計が予算比 1.6%減の 81 億 6840 万円（前年度 3.4%〈2 億 8664 万円〉の減）となりました。人件費には退職給与引当金繰入額 6 億 7112 万円を含み、資金収支計算での人件費支出との差額は 1089 万円となっています。教育研究経費に 5

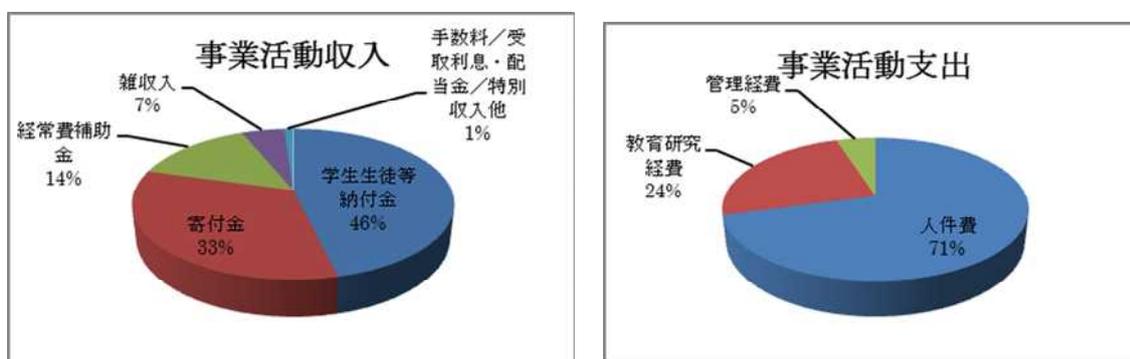
億 9680 万円、管理経費に 2282 万円の減価償却費を含んでいます。教育活動収支差額は予算比 46.44%増の 2 億 2562 万円の支出超過となっています。

教育活動外収支では、教育活動外収入計が予算比 6.24%増の 2978 万円（前年度 16.9%〈430 万円〉の増）となりました。借入金等はないので教育活動外支出計はありません。教育活動外収支差額は 175 万円の収入超過となり、教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合計した経常収支差額は 1 億 9584 万円の支出超過となりました。

特別収支では、特別収入計が予算比 71.94%増の 2364 万円（前年度 35.15%〈1281 万円〉の減）となり、特別支出計が予算比 100.8%増の 2490 万円（前年度 58.03%〈3443 万円〉の減）となりました。資産処分差額に大学の公用車の売却益を計上し、その他の特別収入に天理高校南グラウンド人工芝整備工事への指定寄付金 964 万 3 千円（累計額 1321 万 6 千円）、大学キャンパス整備への指定寄付金 216 万 5 千円、現物寄付として大学後援会等より図書を受贈、文部科学省科学研究費補助金による備品購入分 1125 万円を計上しています。特別収支差額は予算比 93.16%減の 126 万円の支出超過となりました。

当該会計年度の事業活動収入計と事業活動支出計の差額（基本金組入前当年度収支差額）は 1 億 9710 万円の支出超過となり、基本金組入額合計 3 億 1020 万円（予算比 92.91%増）を控除した当年度収支差額は 5 億 730 万円の支出超過額（前年度は 2 億 7007 万円の支出超過額）となりました。前年度繰越収支差額を加えた翌年度繰越収支差額は 115 億 4812 万円となりました。

《事業活動収入及び事業活動支出の構成比》



○ 貸借対照表

貸借対照表は、当法人の財政状態を明示するために、年度末に保有するすべての、資産、負債、基本金および繰越収支差額を前会計年度末の額と比較して一覧表示したものです。資産の部は、貸借対照表の借方に表示され、学校法人天理大学に投入された資金がどのように使われているかを表示します。貸方に表示される負債の部、純資産の部はその資産が他人の資金（負債）によって賄われているか、自己資金（基本金、繰越収支差額）で賄われているか、すなわち資金の源泉を表示しています。

企業会計という資本という概念がないので、基本金の部（基本金として組み入れている資産）と繰越収支差額（事業活動収支計算において事業活動収入から基本金組入額を控除し、事業活動支出を差し引いた差額の会計年度末までの累計額）が貸方に計上されることが企業会計のものと異なる点です。

また、記載金額は期末時点の財産価値ではなく取得した当初の価額を基準とし（取得原価基準）、建物、機器備品等の時の経過によりその価値を減少させる固定資産の貸借対照表計上額は、減価償却をおこなった後の金額となります。

（単位：千円）

●資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産	26,092,603	26,254,794	△ 162,191
有形固定資産	24,231,492	24,474,156	△ 242,664
特定資産	1,437,740	1,657,268	△ 219,528
その他の固定資産	423,371	123,370	300,001
流動資産	5,432,782	5,663,159	△ 230,377
資産の部合計	31,525,385	31,917,953	△ 392,568

●負債の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債	986,133	997,026	△ 10,893
流動負債	1,708,070	1,892,649	△ 184,579
負債の部合計	2,694,203	2,889,675	△ 195,472

●純資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
基本金	40,379,300	40,069,098	310,202
第1号基本金	39,587,167	39,277,451	309,716
第3号基本金	142,133	141,647	486
第4号基本金	650,000	650,000	0
繰越収支差額	△ 11,548,118	△ 11,040,820	△ 507,298
純資産の部合計	28,831,182	29,028,278	△ 197,096
負債及び純資産の部合計	31,525,385	31,917,953	△ 392,568

【用語（科目）の説明】

- ① 固定資産……………有形固定資産：土地、建物、構築物、機器備品、図書、車輛
特定資産：第3号基本金引当特定資産、退職給与引当特定資産、校舎等建設引当特定資産
その他の固定資産：電話加入権、有価証券、敷金・保証金
- ② 流動資産……………現金預金、未収入金、仮払金、貯蔵品
- ③ 固定負債……………長期借入金、退職給与引当金
- ④ 流動負債……………短期借入金、未払金、前受金、預り金
- ⑤ 基本金……………第1号基本金：土地、建物、構築物、機器備品、図書、車輛等の教育研究に必要な資産を
自己資金で取得した総額
第3号基本金：天理大学ふるさと会海外研修基金、果実を学生の海外研修費用の一部に充当
第4号基本金：学校法人が円滑な運営を行うために必要な繰越資金の額
- ⑥ 繰越収支差額 ……当年度以前の各年度の事業活動収入から基本金組入額合計を控除し、事業活動支出を
差し引いた差額の累計額

資産の部では、有形固定資産が施設設備の更新、受贈等による増加と資産の除却による減少及び減価償却額を差し引いて、前年度末から2億4266万円減額しています。特定資産は第3号基本金引当特定資産が積み増しにより49万円増額、校舎等建設引当特定資産が2億2001万円取り崩しにより減額しています。その他の固定資産は有価証券が3億円増額しています。流動資産は現金預金、未収入金、仮払金が減額し、修学旅行費等預り預金を新たに設定し増額したことにより差引2億3038万円の減額となりました。資産の部合計では差引3億9257万円減の315億2539万円となりました。

負債の部では退職給与引当金、未払金、預り金が減少し、前受金、修学旅行費等預り金が増加したので差引1億9547万円減の26億9420万円となっています。純資産の部では、基本金が3億1020万円の基本金組み入れを行いましたので総額403億7930万円となりました。繰越収支差額は事業活動収支計算の翌年度繰越収支差額と同額の115億4812万円の支出超過となっています。資産の部合計から負債の部合計を差し引いた純資産の部（正味財産）は288億3118万円となりました。

（2）経年比較

財務状況について、収支計算書及び貸借対照表の大科目又は主な科目の過去5年間の推移を記載します。なお、平成26年度以前については旧学校法人会計基準（昭和46年4月1日文部省令第18号）により作成したものを新学校法人会計基準（平成25年4月22日文部科学省令第15号）の様式に基づき、区分及び科目を組み替えて作成しました。

(単位：千円)

資金収支計算書					
●収入の部					
科 目	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
学生生徒等納付金収入	3,394,678	3,591,305	3,761,406	3,761,592	3,673,659
手数料収入	77,457	76,454	69,896	69,806	70,616
寄付金収入	3,100,250	2,909,550	2,813,579	2,749,941	2,644,668
補助金収入	1,290,385	1,210,555	1,186,075	1,226,230	1,145,208
資産売却収入	100,000	140,000	0	185	100,077
付随事業・収益事業収入	11,626	10,658	9,250	11,266	14,613
受取利息・配当金収入	23,278	25,630	25,043	25,482	29,779
雑収入	459,227	322,055	378,590	418,857	406,336
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	526,665	498,605	472,825	457,796	485,180
その他の収入	492,630	374,870	258,287	396,543	1,271,955
資金収入調整勘定	△ 880,210	△ 780,319	△ 819,890	△ 1,003,160	△ 938,514
前年度繰越支払資金	4,169,106	4,698,349	4,558,985	4,774,108	5,120,265
収入の部合計	12,765,092	13,077,712	12,714,046	12,888,646	14,023,842

●支出の部					
科 目	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
人件費支出	6,441,977	5,813,866	5,860,258	6,095,073	5,790,832
教育研究経費支出	1,167,167	1,189,445	1,452,858	1,356,565	1,302,203
管理経費支出	365,987	325,683	345,677	367,600	370,250
借入金等利息支出	4,288	2,705	1,123	0	0
借入金等返済支出	100,000	100,000	100,000	0	0
施設関係支出	87,233	320,736	54,416	23,737	279,668
設備関係支出	192,498	194,447	230,694	200,706	207,666
資産運用支出	109,078	100,467	1,402	1,028	700,488
その他の支出	900,861	1,316,192	844,814	957,790	1,610,411
資金支出調整勘定	△ 1,302,346	△ 844,814	△ 951,304	△ 1,234,118	△ 971,022
次年度繰越支払資金	4,698,349	4,558,985	4,774,108	5,120,265	4,733,346
支出の部合計	12,765,092	13,077,712	12,714,046	12,888,646	14,023,842

(単位：千円)

事業活動収支計算書							
教育活動収支	事業活動収入の部	科 目	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
		学生生徒等納付金	3,394,678	3,591,305	3,761,406	3,761,592	3,673,658
		手数料	77,457	76,454	69,896	69,806	70,616
		寄付金	3,100,250	2,909,550	2,813,579	2,746,368	2,632,860
		経常費等補助金	1,286,475	1,196,887	1,164,743	1,206,179	1,145,208
		付随事業収入	11,626	10,658	9,250	11,266	14,613
		雑収入	668,234	322,054	378,590	589,088	405,830
		教育活動収入計	8,538,720	8,106,908	8,197,464	8,384,299	7,942,785
	事業活動支出の部	科 目	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
		人件費	6,220,850	5,913,750	5,854,909	6,007,040	5,779,940
		教育研究経費	1,858,820	1,885,261	2,155,173	2,047,850	1,981,942
		管理経費	622,004	361,218	380,013	400,150	406,520
		徴収不能額等	0	0	0	0	0
		教育活動支出計	8,701,674	8,160,229	8,390,095	8,455,040	8,168,402
教育活動収支差額	△162,954	△53,321	△192,631	△70,741	△225,617		
教育活動外収支	活動収入の部	科 目	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
		受取利息・配当金	23,278	25,630	25,043	25,482	29,779
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	23,278	25,630	25,043	25,482	29,779	
	事業活動支出の部	科 目	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
		借入金等利息	4,288	2,705	1,123	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	4,288	2,705	1,123	0	0
	教育活動外収支差額	18,990	22,925	23,920	25,482	29,779	
	経常収支差額	△143,964	△30,395	△168,711	△45,259	△195,838	
特別収支	事業活動収入の部	科 目	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
		資産売却差額	0	5,000	0	185	77
		その他の特別収入	154,101	23,713	37,468	36,268	23,564
	特別収入計	154,101	28,713	37,468	36,453	23,641	
	事業活動支出の部	科 目	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
		資産処分差額	64,397	45,855	24,504	59,330	24,899
		その他の特別支出	0	0	0	0	0
		特別支出計	64,397	45,855	24,504	59,330	24,899
特別収支差額	89,704	△17,142	12,964	△22,877	△1,258		
基本金組入前当年度収支差額	△54,260	△47,538	△155,747	△68,136	△197,096		
基本金組入額合計	△204,849	△451,833	△104,722	△201,936	△310,202		
当年度収支差額	△259,109	△499,371	△260,469	△270,072	△507,298		
前年度繰越収支差額	△9,751,799	△10,010,908	△10,510,279	△10,770,748	△11,040,820		

基本金取崩額	0	0	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△10,010,908	△10,510,279	△10,770,748	△11,048,820	△11,548,118

(参考)

事業活動収入計	8,716,099	8,161,251	8,259,975	8,446,234	7,996,205
事業活動支出計	8,770,359	8,208,789	8,415,722	8,514,370	8,193,301

(単位：千円)

貸借対照表					
●資産の部					
科 目	23年度末	24年度末	25年度末	26年度末	27年度末
固定資産	27,373,143	27,088,166	26,628,652	26,254,794	26,092,603
有形固定資産	25,560,401	25,309,958	24,849,042	24,474,156	24,231,492
特定資産	1,654,375	1,654,840	1,656,241	1,657,268	1,437,740
その他の固定資産	158,367	123,368	123,369	123,370	423,371
流動資産	5,078,625	4,820,726	5,102,428	5,663,159	5,432,782
資産の部合計	32,451,768	31,908,892	31,731,080	31,917,953	31,525,385
●負債の部					
科 目	23年度末	24年度末	25年度末	26年度末	27年度末
固定負債	1,090,525	1,090,408	1,085,060	997,026	986,133
流動負債	2,061,544	1,566,322	1,549,606	1,892,649	1,708,070
負債の部合計	3,152,069	2,656,730	2,634,666	2,889,675	2,694,203
●純資産の部					
科 目	23年度末	24年度末	25年度末	26年度末	27年度末
基本金	39,310,608	39,762,441	39,867,162	40,069,098	40,379,300
第1号基本金	38,521,855	38,973,223	39,076,543	39,277,451	39,587,167
第3号基本金	138,753	139,218	140,619	141,647	142,133
第4号基本金	650,000	650,000	650,000	650,000	650,000
繰越収支差額	△10,010,909	△10,510,279	△10,770,748	△11,040,820	△11,548,118
純資産の部合計	29,299,699	29,252,162	29,096,414	29,028,278	28,831,182
負債及び純資産の部合計	32,451,768	31,908,892	31,731,080	31,917,953	31,525,385

(3) 主な財務比率の推移

主な事業活動収支計算書関係比率と貸借対照表関係比率の過去5年間の推移を掲載し、一部の比率についてグラフにより概要を説明します。なお、学校法人会計基準改正に伴う新基準における財務比率の算式は日本私立学校振興・共済事業団が提示したものを使用し、過年度の比率も新基準の算式により計算しています。

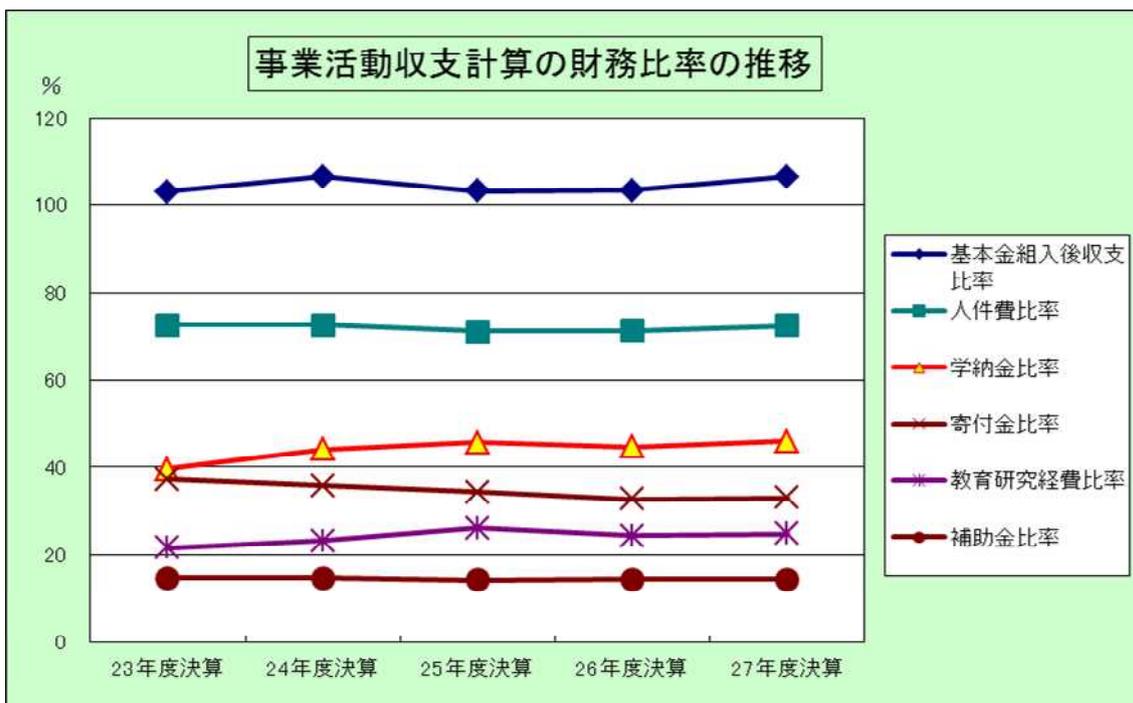
(単位：%)

事業活動収支計算書 関係比率	算式 (×100)	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{經常收入}}$	72.7	72.7	71.2	71.4	72.5
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	183.3	164.7	155.7	159.7	157.3
教育研究費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{經常收入}}$	21.7	23.2	26.2	24.4	24.9
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{經常收入}}$	7.3	4.4	4.6	4.8	5.1
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{經常收入}}$	0.1	0	0	0	0
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動收入}}$	△0.6	△0.6	△1.9	△0.8	△2.5
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動收入}-\text{基本金組入額}}$	103.0	106.5	103.2	103.3	106.6
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{經常收入}}$	39.6	44.2	45.7	44.7	46.1
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動收入}}$	37.3	35.8	34.3	32.7	33.2
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動收入}}$	14.8	14.8	14.4	14.5	14.3
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動收入}}$	2.4	5.5	1.3	2.4	3.9
經常収支差額比率	$\frac{\text{經常収支差額}}{\text{經常收入}}$	△1.7	△0.4	△2.1	△0.5	△2.5
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動收入計}}$	△1.9	△0.7	△2.3	△0.8	△2.8

「經常收入」＝教育活動収入計＋教育活動外収入計

「經常支出」＝教育活動支出計＋教育活動外支出計

貸借対照表関係比率	算式 (×100)	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	84.4	84.9	83.9	82.3	82.8
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債}+\text{純資産}}$	90.3	91.7	91.7	90.9	91.5
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	93.4	92.6	91.5	90.4	90.5
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}+\text{固定負債}}$	90.1	89.3	88.2	87.4	87.5
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	246.4	307.8	329.3	299.2	318.1
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	9.7	8.3	8.3	9.1	8.5
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	99.4	99.7	100.0	99.9	100.0



基本金組入後収支比率は100%を恒常的に上回り、27年度では6.6ポイント上回りました。人件費比率は23年度から横ばい状態ですが、27年度は前年度から1.1ポイント上がりました。学生生徒等納付金比率（学納金比率）は1.4ポイント、寄付金比率は0.4ポイント上がりました。教育研究経費比率は0.5ポイント、管理経費比率は0.3ポイント上がり増加傾向となっています。補助金収入は昨年度より減額となり、補助金比率は横ばいとなりました。